

乳幼児をもつ家族などへの救急対応の講習会 ～子どもの一次救命処置を中心に～



杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻（小児看護学）
藤田千春、小林佳寛、場家美沙紀、山内亮子

I. 背景と活動目的

近年、子どもをもつ共働き世帯の増加に伴って、多くの乳幼児が保育施設等で日中過ごしている。地域で過ごす子どもの多くは健常児であるが、誤嚥、転落、交通事故、溺水といった不慮の事故により心肺停止につながる状況が少なからず生じている。子どもがこのような事態に陥った時に、子どもの親族、周りの大人が子どもの一次救命処置を知って実践できることで救命につなげることができるのではないかと考えた。子どもの一次救命処置は、地域で企画・実施していることが少なく、消防署等での講習は有料となっている事より、なかなか気軽に学ぶことができないと想定される。そこで我々は、気軽に足を運べる杏林祭や子育て支援センター等で、乳幼児をはじめとする救急対応の講習会を行ない、子どもに特化したAEDの実施、一次救命処置の実践を学んでもらうことを活動目的として取り組んだ。

＊講習会は子どもの一次救命処置をより多くの人々に知ってもらうために、乳幼児と実際の関わりが無い方でも希望があれば講習に参加して頂いた。

II. 活動の準備

☆学生ボランティアの募集

教員と共に参加者への指導補助を担当する学生を募集し、7名の応募が得られた。

☆講習プログラムの準備

実施施設でニーズのある講習内容を抽出し、非医療者に必要な講習を教授できる様、指導のプログラムを検討した。指導内容の要点を受講者に伝えやすくする為に、一般市民用のプログラムを平易な表現にするべく工夫した。また教員は改めてAHABLS講習2020で自己研鑽した。

AHAの研修中において他受講者の取り組みを参加観察し、受講者が欲している学習ポイントや動作パターンを捉えるようにした。

☆学生ボランティアとの練習会

学生と共に勉強会と技術面の練習会を行った。
実施日：2024年10月21.22日午後（7名全員出席）

☆実施先の準備

実施の留意点を共有し、受講者が練習しやすい学習内容と環境の設定を行った。

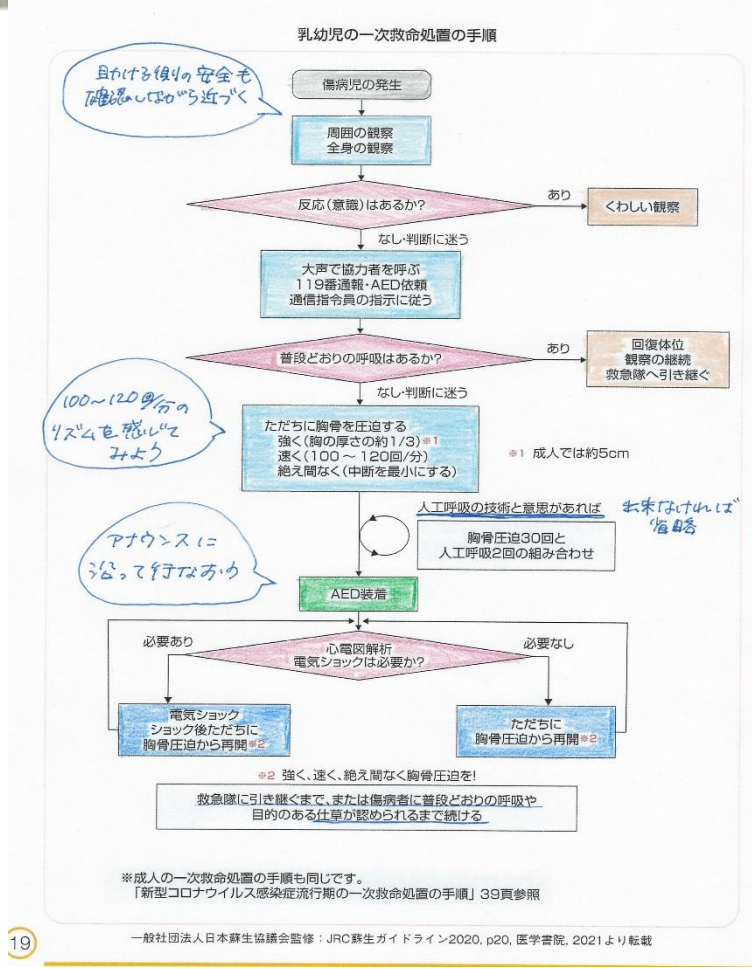


実施風景

←子どもの一次救命処置の事前練習風景
左2枚

↓当日
学生ボランティアが
教えているところ

JRC蘇生ガイド
ラインより⇒



III. 活動内容と結果

☆実施日、施設、受講人数

2024年①10月26日、27日杏林祭E棟 受講者44名（その内、親族等子どもと接する機会がある者34名 77%）

2024年②11月11日小田原市内子育て支援センター 受講者20名（センター職員、ファミリーサポート職員、市職員）

☆実施した講習プログラム

非医療者用の小児一次救命処置（幼児および乳児とAEDの実施の実技）

◆赤文字の項目を基本コースとして指導

自分の出来具合を振り返るチェックリストを基に練習して頂いた

＊ご希望の方には窒息の解除や気道確保などを追加説明した。

☆受講者の声

＊実施前は怖い、難しそう、大変そうと思う方が半数以上

- ・特に乳児の胸骨圧迫について学べて良かった。勉強になった。・AEDの操作を経験できた。
- ・シミュレータや練習用AEDを使って練習できたのが分かりやすくて良かった。
- ・丁寧でとても分かりやすかった。・年一回はできると良いと思いました。・繰り返し練習したい。
- ・受講者全員が受講前よりも一次救命処置を実施してみようと思うと回答して下さった。

受講者へのアドバイス 多かったもの

- ・圧迫テンポの速さ、深さ
- ・胸骨圧迫の位置、救助者の腕の角度 など

特色

グループに教員と学生ボランティアを配置し、いつでも質問しやすい場面作り。
学生ボラも体験をもとに技術面のアドバイス！

IV. まとめ

子どもと接する機会のある人々は、子どもの一次救命処置の必要性を感じていても実施の恐怖感を生じている事から、シミュレーター練習で処置を行う恐怖感を軽減させ、万が一の時に、実践できるよう繰り返し教育支援を続けていく必要がある。今後も半年から1年間隔で教育の機会を提供し、受講者のスキルアップと救命の意識向上に貢献していきたい。